

6 学生支援に関する事項

1 キャリア開発・就職支援について

「キャリア教育」及び「キャリア開発・就職支援」は、第5次長期計画における重点的施策のひとつとして位置づけ、教学と連携し、学生の自己成長を促しながら、学生が確かな将来ビジョンを描き、進路選択に繋がるよう支援をおこなっている。

2012年度は「キャリア支援の方針」に基づき、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を重要施策の2本柱として位置づけ、この両面から学生の成長に繋がる様々な事業を実施した。キャリア教育については、キャリア教育推進方策検討プロジェクトにて、今後のキャリア教育のあり方や取り組みについての具体的な方向性を示した。進路・就職支援については、学生の雇用・就職環境の状況把握に努めるとともに、一般社団法人 日本経済団体連合会の倫理憲章等に対応しながら、「各種キャリア（進路・就職）

ガイダンス」、「業界・企業研究」、「筆記試験対策」、「履歴書・エントリーシート対策」、「個人・集団面接対策」等を通して学生への就職活動支援をおこなった。さらに、キャリアセンタースタッフによる学部（学生）担当制を導入して学生の活動状況の把握に努めるとともに、一人ひとりの学生の個々の状況を踏まえたface to faceによるきめ細かな面談を強化し就職活動支援をおこなった。

1 就職活動の支援

●個人面談の強化

学部（学生）担当制により、キャリアセンター相談スタッフ1人あたり約250名の学生を担当し、「就職状況把握システム」等を活用して、学生の就職活動状況を把握するとともに、メールや電話等でイベントへの参加等を促し、学生一人ひとりの状況に応じた学生相談、指導をおこなった。その結果、キャリアセンターの利用率は54.02%とな

り、2011年度より2.44%向上した。

●筆記試験・エントリーシート対策の強化

筆記試験対策として、SPI模擬試験を5月、10月の2回にわたって実施するとともに、模擬試験と連動して理解力強化(弱点補強)を目的とした対策講座を開講した。また、エントリーシート対策として、11月にエントリーシートの書き方講座(対策講座)を開講した。

●U・Iターン就職支援の充実

2010年7月に鳥取県と就職支援を主な柱とした包括協定を締結して以降、徳島県、広島県、香川県、愛媛県、鳥根県、長野県の6県と就職支援に関する協定を締結し、自治体と連携した学生への就職支援を強化した。さらに、北陸地方(石川・福井・富山県)へのU・Iターン就職支援策として、1月に石川県金沢市にて合同企業説明会、保護者を対象とした講演会及び個別相談会を開催した。

●大阪梅田キャンパスの支援充実

関西圏を中心に就職活動をおこなっている学生の就職支援の場として、キャリアカウンセラーによる学生への個人面談や模擬面接等を中心に支援をおこなった。利用学生は延べ10,090名であり、うち面談利用者は2,344名であった。また、企業を誘致した企業説明会も随時開催し、参加企業は101社、824名の学生が参加した。

2 企業の開拓

●企業訪問の強化

大手企業をはじめ、魅力ある中堅・中小企業等、企業の求人情報の収集や学内企業説明会への誘致等を目的とした企業訪問をおこなった。中でも特に、関西の優良な中堅・中小企業を訪問し、情報収集に努めた。学生への情報提供は「龍ナビ」や各種ガイダンス、個別面談等を通じておこない、学生と企業とのマッチングに取り組んだ。また、地元経済団体との連携強化にも積極的に取り組んだ。

●企業・大学懇談会の開催

2012年度は大阪にて「企業・大学懇談会」を開催し、参加企業は152社であった。採用に関する情報収集をおこ

なうとともに、学生のインターンシップ成果発表や内定者を含めたパネルディスカッション等を通じて本学学生をアピールした。また、どのようにすれば学生が求人に応募するのか等、中堅・中小企業にとっての課題解決に資する情報提供に努めた。また、就職支援協定を締結している広島県及び徳島県においても、企業懇談会を開催し、企業との関係構築・強化に努めた。

●全国保護者懇談会に併せた求人情報等の収集とフィードバック

全国保護者懇談会の開催にあわせて、開催地域の企業や若年者向け支援機関等を訪問して、Uターン情報を収集し、保護者懇談会にて情報提供をおこなった。また、若年者向け支援機関の担当者を懇談会に招聘し、直接保護者へ情報を提供する機会を創出するとともに、行政機関との関係強化を図った。

3 キャリア教育(キャリアガイダンス)の充実

●初年次向けキャリアガイダンスの充実

新入生オリエンテーション期間に、すべての1回生を対象としたキャリアガイダンスを開催し、学生が明確な将来ビジョンが描けるよう、サークル活動や留学、ボランティア等の大学生活の紹介をはじめ、積極的に正課及び正課外活動に取り組むようガイダンスをおこなった。また、アセスメント・ツールである「自己発見レポート」を活用し、学生自身の自己を振り返り、学びの姿勢を主体的に考える機会を提供した。

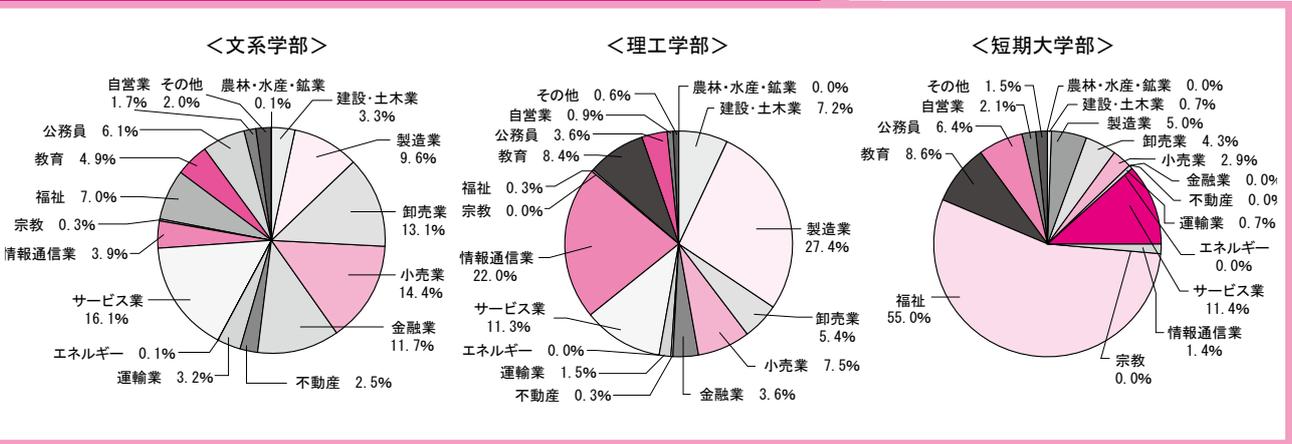
●2年次生向けキャリア形成支援プログラムの実施

社会性の醸成やコミュニケーション能力の向上等を図るため、夏期休暇中に1泊2日で他大学と合同でサマーキャンプを開催した。大学、学部の枠組みを越えた学生間の交流を通じて、多様な価値観や相互理解を深めることができた。参加者アンケート結果では、93.8%の学生が満足・大変満足との回答であった。

●各学部の演習・ゼミ等との連携・協働

文学部、経済学部、経営学部、国際文化学部と連携して、

2012年度卒業生の業種別進路選択状況



学生自らが大学生生活における目標や夢を掲げ、その達成に向けて主体的に取り組めるよう1回生を対象としたキャリアガイダンスを実施した。また、3回生を対象として、キャリアカウンセラーがゼミや演習等に出向き、エントリーシート、面接等の基本となる自己分析ができるよう「自己分析セミナー」を10月から12月かけて実施した。

●キャリアサポータープログラムの充実

キャリアセンターの就職イベント・プログラムのサポートに加え、7月にキャリアサポーター自らが企画した上回生のための就職支援イベントを開催し、約40名の学生が参加した。また、キャリアサポーターが編集したキャリアニューズレターを12月と2月に2回発行した。

4 キャリア支援講座の展開

●学生・社会のニーズに対応した資格系対策講座の提供

学生や社会のニーズの高い資格系対策講座を中心に厳選してキャリア支援講座を開講した。学生の時間的、経済的負担を軽減し、資格取得等にチャレンジしやすい環境作りにも努めた。支援講座全体の受講者は1,249名であった。

●公務員講座の充実

公務員講座は、2012年度は256名の受講生に対して一人でも多くの合格者を輩出できるように、学生の理解が困難な科目に対しては補講をおこなう等、充実を図った。また、夏季休暇中には前期の総括的な講座を開講し、欠席者等に対するフォロー態勢を強化した。さらに公務員講座の

受講生を中心に、個別面談や面接対策等も実施し、採用試験合格に向けた支援に努めた。

●TOEIC講座の充実

学生のレベルに応じたクラス編成ができるようにプレテストを実施した。また、TOEICの得点が高くなるよう習熟度に応じた目標得点別の講座を開講し、深草・瀬田学舎の前期・後期をあわせて計7クラス開講した。

5 インターンシップの展開

●協定型インターンシップの充実

2012年度は6名の専任担当教員のもと、本学独自のプログラムとして20回にわたる事前・事後学習をおこなった。57企業に対して97名の学生が参加し、6グループが「企業・龍谷大学懇談会」（参加企業152社）にて成果報告をおこない広く社会にアピールした。

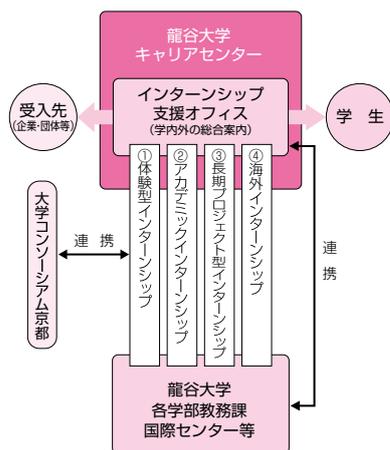
●多様なインターンシップの情報提供

3学舎にてインターンシップガイダンスを開催し、719名の学生が参加した。本学の協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都主催インターンシップ、自己応募型インターンシップ等の情報提供を幅広くおこなうとともに、随時「龍ナビ」にて情報を公開した。また、7月には、自己応募型インターンシップに参加する学生のためにガイダンスを開催し、参加にあたっての準備事項や心構え、マナー等を伝え、多くの学生が自主的にインターンシップに参加できるよう取り組んだ。

インターンシッププログラムの展開

4つのタイプのインターンシッププログラムを全学で展開し、学生の自立とキャリア形成を支援しています。

〈インターンシップの推進体制とプログラムの概要〉



①体験型インターンシップ

企業・行政機関・NPO等において行う、実習期間が2週間～1カ月程度の短期体験型学習プログラムです。

②アカデミックインターンシップ

学部専門教育の一つの柱として、学部の専門性をいかしたプログラムで、龍谷大学インターンシップのコアプログラムです。

③長期プロジェクト型インターンシップ

高度人材育成を念頭に置いた長期プロジェクト型インターンシップ（期間は少なくとも1セメスター：半年間）で、プログラム形成そのものを学生と共に構築し、明確にアウトプットがわかるプロジェクト型成果重視のインターンシップです。

④海外インターンシップ

在外企業や、国際機関などへのインターンシップを海外で展開します。

〈2012年度 龍谷大学インターンシッププログラムの実施状況〉

インターンシップ名称	プログラム名称	単位認定	対象	参加人数
①体験型 インターンシップ	大学コンソーシアム京都インターンシップ「夏期インターンシップ」	学部により異なる	全学部	82
	「協定型インターンシップ」	認定 (短大以外)	全学部	97
	「自己応募型インターンシップ」 一企業・団体等が独自に行うインターンシップに学生自ら応募するインターンシップ	学部により異なる	全学部	29
②アカデミック インターンシップ	「法律実務論」	認定	法学部	10
	「法律事務実務Ⅰ」実地研修 「法律事務実務Ⅱ」実地研修	認定	法学部	12
	「学外実習（キャリア実践実習）」	認定	理工学部	233
	「コミュニティマネジメント実習」	認定	社会学部(コミュニティマネジメント学科)	11
	社会福祉援助技術現場実習ⅡB	認定	短期大学部	1
	社会福祉援助技術Ⅱ	認定	社会福祉学科	7
③長期 プロジェクト型 インターンシップ	大学コンソーシアム京都インターンシップ「長期プロジェクト型インターンシップ」	学部により異なる	全学部	12
	「自己応募型インターンシップ(長期)」	学部により異なる	全学部	0
	高度人材育成を目的としたエクスターンシップ 「法務研修」	認定	法務研究科 (法科大学院)	27
	高度人材育成を目的としたインターンシップ 「行政インターンシップⅠ・Ⅱ」 「NPOインターンシップⅠ・Ⅱ」	認定	政策学研究科・ 法学研究科・ 経済学研究科・ 社会学研究科	4
④海外 インターンシップ	「海外インターンシップ(自己応募型)」	認定	全学部	0
	海外キャリア実践教育及び実習 「短期留学制度(インターンシップ)」	認定	理工学部 国際文化学部	16 0
合計				596

2 学生生活・課外活動支援について

学生生活全般において、学生自らが豊かな人間性を身につけることができるよう、経済的支援、学生生活支援、課外活動支援を中心に学生生活が充実するよう取り組んだ。

経済的支援は、本学独自の各種給付奨学金や日本学生支援機構等の学外奨学金の給付・貸与をおこなった。特に、東日本大震災や台風等の災害で被害を受けた学生に対しては、迅速に状況を把握し、家計が急変した場合には奨学金の給付をおこなった。その他、短期貸付金制度や学費の延納・分納制度の周知を図った。学生生活支援では、「なんでも相談室」で学生の様々な相談に応じるとともに、必要に応じて「こころの相談室」に引き継ぎ、専門のカウンセラーが継続して相談に応じるよう取り組んだ。このことにより、学生の悩みを早期に把握し解決することができた。その他にもカルトの被害から学生を守

る取り組みや、学友会と共同で卒煙啓発のキャンペーンを実施した。課外活動支援では、「課外活動は正課とあいまって重要な教育の一環」と位置づけ、フレッシュャーズキャンプ等の課外教育の充実、龍谷祭を始めとする学生行事や学生自治活動への支援をおこなった。特に2012年度は大学全体の活性化や他の学生の範となる団体を指定し支援をおこなった。

1 経済的支援（奨学金等）の充実

●自然災害に被災した学生に対する経済支援

東日本大震災で被災した学生に対して学修継続の支援を目的とした「東日本大震災に伴う特別援助奨学金」及び「東日本大震災に伴う帰省費用援助金」を14名に給付した。また、自然災害に被災した在学生に対し、学業継続の支援を目的として「災害給付奨学金」を、宇治市を中心とした大雨で被害を受けた学生3名に給付した。

奨学金による支援状況〈2012年度〉

龍谷大学の奨学金制度（※下表は全て給付型の制度です）

奨学金の種別	支給対象学生数（人）	支給総額（円）	
龍谷大学給付奨学金	学業成績優秀奨学生	312	66,500,000
	大学院研究支援奨学生	47	13,900,000
	大学院特別給付奨学生	83	25,090,300
	仏教活動奨学生	36	1,000,000
	優秀スポーツ選手奨学生	88	25,680,200
	課外活動等奨学生	8	960,000
	家計奨学生	170	34,000,000
	外国人留学生特別奨学生	78	33,003,000
	法科大学院学業奨学生	10	9,957,000
	BIE Program奨学生	8	1,600,000
	私費派遣留學生奨励奨学生	34	5,100,000
	理工学研究科博士後期課程特別給付奨学金	9	2,119,500
	災害給付奨学生	3	1,096,500
	家計急変奨学金	27	8,200,000
	法科大学院利子補給奨学生	0	0
法科大学院下宿者学業支援奨学生	31	10,776,000	
龍谷大学学費援助奨学金	外国人留學生学費援助奨学生	442	126,731,05
	地域人材育成学費援助奨学生	10	7,430,000
	アカデミック・スカラシップ奨学金	78	31,234,000
	法科大学院学費援助奨学生	49	29,543,500
龍谷大学親和会による奨学金	親和会海外研修奨学金	7	850,000
	親和会学生生活活動奨励金	13	2,000,000
	親和会学生救済型奨学金	4	1,462,000
その他	校友会奨励金	11	370,000
	沼田奨学金	4	4,800,000
	北畠給付奨学金	2	731,000
	六角仏教会奨学基金	4	600,000
	東日本大震災に伴う特別援助奨学金	14	9,768,400
	東日本大震災に伴う帰省費用援助金	14	559,100
合計	1,596	455,081,550	
龍谷大学以外の奨学金制度			
奨学金の種別	支給対象学生数（人）	支給総額（円）	
民間・地方自治体の給付奨学生（16種類）	34	17,140,000	
日本学生支援機構の給付奨学生（4種類）	181	46,126,000	
民間・地方自治体の貸与奨学生（16種類）	34	17,140,000	
日本学生支援機構の貸与奨学生（4種類）	7,566	6,229,808,000	

●家計が困窮している学生に対する経済支援

経済的理由により著しく修学が困難な学生に対して学修継続の支援を目的として「家計奨学金」を170名に給付した。また、経済不況に対応すべく、家計の急変により学習継続が困難な学生に対して緊急的な支援を目的とした「家計急変奨学金」を27名に給付した。

●障がいをもった学生に対する経済支援

障がいをもった学生の学修継続の支援を目的として「北畠給付奨学金」を2名に給付した。

●学費延納制度及び学費分納制度ならびに短期貸付金制度による経済支援

学費の一括納入が困難な場合に、学費の納付期限を延期(延納)、分割(分納)することができる制度を運用して支援をおこなった。また、一時的に家庭の事情により生活費が不足する等、やむを得ない場合の救済制度として、短期貸付金制度により支援をおこなった。

2 学生生活に関する相談・支援

●学生生活の手引きの作成

様々なトラブルを未然に防ぎ、学生が快適で有意義な学生生活を送れるように、その対処方法等を分かり易くまとめた「龍大生の心得」を作成し、全学生に配付した。

●なんでも相談室によるサポート

学生生活に関するあらゆる相談を受ける“なんでも相談室(学生部内に設置)”において、専門の担当者が学生の相談に応じ、学生生活のサポートをおこなった。また、大宮学舎保健管理センターの“こころの相談室”内になんでも相談室を新たに設置した。

●トラブル防止策の実施

マルチ商法・架空請求等の悪質商法やカルト団体の勧誘から学生を守るため、弁護士会や近隣大学と情報を共有・収集をおこなった。また、「カルトの被害から学生を守るための基本方針」に基づき、学内に立て看板を設置する等、カルトの被害から学生を守るための啓発活動・保護者との連携・脱会の支援等をおこなった。また交通安全の観点から、瀬田学舎において自転車・バイクの登録制度を開始した。

●禁煙の推進

5月31日からの「世界禁煙デー週間」の期間中、学友会と連携して禁煙キャンペーンを実施した。学友会独自の活動であるマナーアップキャンペーンでも禁煙を呼びかけている。なお、2010年度から引き続き「卒煙支援ブース」を各キャンパスに設置し、卒煙啓発と喫煙習慣を身につけないための啓発をおこなった。

●その他学生生活支援

学生教育研究災害保険への全員加入により、安心して正課・課外活動に参加できるように引き続き支援をおこなった。

●障がいのある学生への支援

障がい学生支援委員会を中心に、学修上や学生生活を送る上での困難な状況を所属学部と共有し、関係部署と連携して支援にあたった。また、学生サポーターの養成と教職

員の意識向上のための研修会を開催して、障がいのある学生への支援に努めた。

3 課外活動の支援

●課外活動基本方針の堅持

「課外活動は正課授業とあいまって大学教育の重要な一環である」という基本理念に則り、課外活動が人格形成・人間形成に役立つ「教育」の場であるとの認識のもと、大学全体の活性化に向け、積極的な支援に努めた。

●課外活動推進策の推進

2012年度より重点サークルを3団体、強化サークルを7団体指定し、積極的に支援策を講じるとともに、課外活動全体の活性化を推進した。

●学友会団体への経済的支援の実施

大会遠征や全国大会及び定期演奏会開催等の経費及びサークル活動の活性化に繋がる経費について、重点・強化サークルを中心とした各サークルに対して積極的に支援をおこなった。

●学生の主体的活動に係る支援体制の再構築

学生の主体的活動の促進に向け、SMAP計画(SMAP=Self Making Assist Program)を実施し、学生らしい自由な発想の自主的活動団体へ経済的支援をおこなった。

●課外活動指導者の研修

重点・強化サークルの指導者やトレーニングセンターのスタッフを対象とした研修会「コーチサミット」を開催し、課外活動基本方針の徹底や指導力の向上及び情報共有をおこなった。

●アバンティ響都ホールの積極的活用

地域をはじめ学外に対するサークルの活動発表会の実施のみならず、新たな活動拠点としての積極的な活用と日常の練習の場としての活用のための環境整備に努めた。

4 課外教育の展開

●新入生フレッシュャーズキャンプの実施

「建学の精神の普及と醸成及び学生生活を有意義に送るための助言・指導」を目的に新入生フレッシュャーズキャンプを実施した。在学生ヘルパーが、ホスピタリティ精神を持って当該キャンプの運営に携わり、新入生の大学への帰属意識の向上や学生生活を送る上で重要となる“友達づくり”が円滑にできるよう取り組んだ。

●国際性の涵養やリーダーシップ養成を意図した事業(海外友好セミナー)の実施

国際的な視野とキャリアアップにつながることを目的として、海外友好セミナーIN USA ~GLOBAL CAREER PROGRAM~を実施した。現地の大学生との交流や留学する日本人学生との交流を深めることで、国際的感覚の醸成を目指した。また、グローバルな職業観を身につける機会として、日本大使館や国連本部、日本企業の現地幹部等関係者との懇談を実施するとともに、語学力習得の必要性を感じる契機として、短期のホームステイ体験を実施した。2012年度は研修成果をよりいっそう高めるため、国際部

課外活動の主な成績一覧（抜粋）

（2012年度）

サークル名	大会名	開催日	成績	備考
硬式野球部 ★創設100周年	関西六大学野球春季リーグ	5/21～	最優秀選手（古本） 最優秀投手（杉上） ベストインフィールド手（鈴木） 一塁手（鈴江） 遊撃手（坂本） 外野手（古本） 担当記者クラブ賞（古本） 平古場賞（新人賞）（坂本）	初初初初初③
吹奏楽部	全日本吹奏楽コンクール		銀賞	
	関西アンサンブルコンテスト		クラリネット4重奏（2チーム）金賞 サクソ8重奏 金賞 トランペット5重奏 銀賞	※全国大会出場決定
陸上競技部	第89回関西学生陸上競技対校選手権大会	4/25～5/13	男子1位（西川） 2位（小島） 1位（山本） 女子3位（芝田） 2位（芝田）	3000mSC 1000m 10000mW 400m 400mH
	第28回日本ジュニア陸上競技選手権大会	5/3	男子2位（山本）	
	第96回日本陸上競技選手権大会	6/8～10	5位（芝田） 6位（芝田）	400mH 400m
	第15回アジアジュニア陸上競技選手権大会	6/9～12	5位（山本）	1000m競歩
	2012日本学生個人選手権	6/22～24	男子5位（中大路） 女子3位（芝田）	3000mSC 400mH
	秩父宮賜杯第65回西日本学生陸上競技対校選手権大会	7/6～8	男子2位（山本） 2位（中大路） 8位（下村） 女子2位（芝田） 2位（芝田） 7位（了添） 6位（岩崎）	10000mW 3000mSC 5000m 400m 400mH ※大会新 10000mW 走幅跳
	天皇賜杯第81回日本学生陸上競技選手権大会	9/7～9	男子4位（中大路） 女子3位（芝田）	3000mSC 400mH
	2012関西学生陸上競技個人選手権大会	10/23～26	男子1位（古和田） 女子1位（芝田）	3000mSC 400mH
端脳部	第34回全日本軽量級選手権大会	5/18～20	順位決定1位 ※総合5位（鈴木・岡・井垣・林） 準優勝（吉田・中崎）	女子舵手なしクォドルブル 男子ダブルスカル
	関西選手権大会	6/30～7/1	優勝（鈴木・藤田） 準優勝（其田・北川・福住・原田） 準優勝（太田・高木・空・元村・岡） 3位（中村・中崎） 3位（林）	女子ダブルスカル 男子舵手なしクォドルブル 女子舵手付きクォドルブル 男子舵手なしペア 女子シングルスカル
	第39回全日本大学選手権大会	8/23～26	5位（山口・宇野・正宗） 8位（田口・岡・林・藤田） 8位（大綱・勝野）	男子舵手付きペア 女子舵手付きクォドルブル 女子舵手なしペア
柔道部	関西学生柔道体重別大会	9/2	男子優勝（堀） 女子優勝（小野） 2位（三輪） 2位（西川） 3位（田邊） 3位（三山）	100kg超級 57kg級 52kg級 63kg級 63kg級 78kg級
	全日本学生柔道体重別選手権	9/29～30	女子ベスト8（西川）	63kg級
	講道杯全日本柔道体重別選手権大会	11/10～11	5位（小野）	57kg級
	第9回滝谷杯全国学生柔道体重別選手権大会	11/23	女子1位（小野） 3位（谷口） 3位（島本）	
	ヨーロッパオープンソフィア大会（ブルガリア）	1/25	準優勝（小野）	※世界大会
卓球部 ★創設100周年	第82回全日本大学総合卓球選手権大会	7/5～8	女子ダブルス ベスト8（7位）（久木・市原）	2年連続
	第79回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）	10/25	女子ダブルス ベスト8（久木・市原）	
	平成24年度全日本卓球選手権大会	1/19	女子ダブルス ベスト16（久木・市原）	
バドミントン部	関西学生バドミントン春季リーグ戦 最終戦	5/12	優勝	男女
	関西学生バドミントン選手権大会	6/8～25	優勝（吉村） ベスト8（藤田）（新居）（達沢） 優勝（東野） 準優勝（小森） ベスト4（3位）（中尾）（俣村） ベスト8（牧野）（河崎） 優勝（牧野・河崎ペア） 準優勝（東野・中尾ペア） ベスト4（3位）（西・高橋ペア） ベスト8（藤本・宮原ペア）	男子シングルス 男子シングルス 女子シングルス 女子シングルス 女子シングルス 女子シングルス 女子ダブルス 女子ダブルス 女子ダブルス 女子ダブルス
	西日本学生バドミントン選手権大会	8/29～9/6	3位男子団体 優勝女子団体 2位（山形） 3位（松原） ベスト8（藤田） 3位（東野） ベスト8（小森） ベスト8（尾崎） 3位（藤本・宮原ペア） ベスト8（河崎・牧野ペア）	男子シングルス 男子シングルス 男子シングルス 女子シングルス 女子シングルス 男子ダブルス 女子ダブルス 女子ダブルス
	関西学生バドミントン秋季リーグ戦大会	9/12～9/21	優勝 男子1部 優勝 女子1部	
	近畿総合バドミントン選手権大会	9/29～30	3位（小森） ベスト8（中尾） ベスト8（堤・吉村ペア） 優勝（堤・牧野ペア） 優勝（西・高橋ペア） 2位（河崎・牧野ペア） 4位（藤本・宮原ペア）	女子シングルス 女子シングルス 男子ダブルス 混合ダブルス 女子ダブルス 女子ダブルス 女子ダブルス
	全日本学生バドミントン選手権大会	10/19～25	ベスト16男子団体 ベスト8（東野） 3位（河崎・牧野ペア） ベスト8（藤本・宮原ペア）	女子シングルス 女子ダブルス 女子ダブルス
	平成24年度関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦	4/8～5/27	優勝※5期連続優勝	※5連覇
女子バレーボール部	平成24年度第38回西日本大学バレーボール女子選手権大会	6/21～6/24	準優勝 敢闘賞（加藤） 猛打賞（宮井）	
	第8回東西インカレバレーボール女子選抜優勝大会	7/14～7/15	6位	
	平成24年度関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦	9/8～10/28	優勝	※6連覇
	平成24年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会	10/13	優勝	近畿ブロック
	平成24年度関西大学バレーボール大学男女選手権大会	11/17～11/18	優勝	

と連携し、計5回の事前学習を実施した。

5 学生行事の支援

●「新入生歓迎イベント」への支援

「新入生オリエンテーション」期間中に実施する学友会主催の「各種新入生歓迎イベント」「サークル勧誘活動」等に対して、助言・指導等の支援をおこなった。

●学友会主催「フレッシューズキャンプ」、「リーダーズキャンプ」への支援

フレッシューズキャンプにおいて、学友会の4局（宗教局・学術文化局・体育局・放送局）所属サークル員に対し、課外活動をおこなう上での心構え等を指導した。また、リーダーズキャンプでは、クラブ運営のあり方等を指導する等、様々な支援をおこなった。

●「創立記念降誕会」、「顕真週間」、「龍谷祭」、「学術文化祭」等への支援

「創立記念降誕会」、「顕真週間」、「龍谷祭」、「学術文化祭」といった各種学生行事の実行委員に対して、様々な相談や助言、指導、経済的支援等をおこなった。

●「夕照コンサート」への支援

音楽を通じた青少年の健全な育成と地域との交流を目的として、本学吹奏楽部と滋賀県内の小学校・中学校・高校の吹奏楽団体とのジョイントコンサート「夕照コンサート」を本学瀬田学舎にある瀬田ドームで開催した。「夕照コンサート」は、2012年度で節目となる20回目を迎え、滋賀県やその他の行政機関からも多大な協力をいただき盛大に開催することができた。

●吹奏楽フェスタ in OSAKA

大阪地区において、本学の活動を紹介する機会として、本学吹奏楽部と大阪府下の3つの高校（刀根山・寝屋川・東住吉）とのジョイントコンサートをおこなった。課外活動分野における高大接続連携の新しいあり方について、1,200人を超える聴衆にアピールする機会となった。

●鳥取県との連携協定に基づく事業の実施

鳥取県出身学生と鳥取県関係者（企業・県職員・同県出身の教職員）との世代間交流会を2回にわたり実施した。また、鳥取県内において、本学吹奏楽部と鳥取県下の7つの高校（鳥取東・倉吉総合産業・鳥取中央育英・米子東・米子西・米子南・倉吉北）及び鳥取県内中学校選抜とのジョイントコンサート「吹奏楽フェスタ in まんが王国とっとり」を開催し、1,300人を超える聴衆に本学と鳥取県との協定をアピールした。



6 学生自治活動の支援

●「学生中心の大学づくり」の促進

本学では、学友会の自治と自主的な活動を尊重して「学生中心の大学づくり」に努めている。そのような学生の要望や意見交換をおこなう機会として、大学の構成員である学生・教員・事務職員の三者の代表によって構成される全学協議会を開催した。

●中央執行委員会との定例ミーティング・専門委員会の活用

学生部と学友会中央執行委員会との意思の疎通を図ることを目的に定例ミーティングを継続的に開催した。また、学生が抱えている喫緊の諸問題や課題への対応については、専門委員会を開催して迅速な問題点の把握と適切な解決に努めた。

●学生と教職員のコミュニケーションの推進

中央執行委員会・学部学生会との情報交換の実施、サークル部長による課外活動指導等とおして、学生と教職員のコミュニケーションを促進し、自治活動における問題の指摘やアドバイス等をおこなった。

3 ボランティア活動の支援について

ボランティア・NPO活動センターは、ボランティア活動を共生教育のひとつとして位置づけ、思いやりと責任感のある行動的な人間を育成し、社会貢献に寄与することを目的としている。

このことから、国内外の高等教育機関、浄土真宗本願寺派、地方公共団体、各種NPO・NGOをはじめとする市民活動団体等々との交流を深め、学内外における様々なボランティア活動の振興を図る事業を実施した。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災に対しては、2011年度に引き続いて被災地（宮城県石巻市雄勝町）へのボランティアバスの運行、復興支援フォーラムの実施、その他学内における復興支援活動等を大学としておこなうため、ボランティア・NPO活動センターが事務局となり各事業を進めた。

●東日本大震災での復興支援活動と活動報告会

被災地の状況を十分に事前調査した上で時期・内容等を検討した上で、9月と11月に宮城県石巻市雄勝町への復興支援ボランティアバスを運行し、本学学生と教職員合計68名がボランティア活動に参加した。また、活動内容等を本学学生に伝え、共有する機会として、各回実施後は学内にて活動報告会を開催した。

●東日本大震災復興支援フォーラムの開催

復興支援フォーラム「震災は他人事（ひとごと）じゃない！東北沿岸600キロ震災報告～つながり続けるということ～」を開催し、学内外から約200名の参加者があった。講師に被災地の様子取材し続けている写真家の大西暢夫

氏を迎え、同氏の写真展や復興支援ボランティア活動先である雄勝町の物産品販売も同時開催した。

●その他の学内での活動

被災地で活動する学生への支援金を学内教職員、親和会、校友会に募り、集まった支援金を2012年度の復興支援ボランティアバスの運行に充てた。また、個人で被災地での活動を希望する学生や関西でもできる支援活動に関心がある学生に、情報提供やボランティアガイダンスを開催する等、積極的なボランティア活動の取り組みを支援した。

4 国際交流について

本学では、様々な文化的背景を持つ人々が集まる国際社会に対応できるグローバル人材の育成を目指し、コミュニケーション能力や異文化理解を醸成できるように、できるだけ多くの学生が、海外で学ぶことができるように長期に渡り環境を整備してきている。2012年度には、525名の学生（1学期～2学期間：240名、1週間～1ヶ月程度：285名）が海外で学び、その人数は着実に増加している。

また、より多くの学生がキャンパスにおいて異文化間コミュニケーション能力を高めることができるよう留学生と交流する機会を積極的に提供している。そのひとつの方策として、留学生との共同生活が可能な国際交流会館（ともいき国際ハウス、りゅうこく国際ハウス）を整備し、2013年3月から入居を開始した。このことにより、2013年度に向けて更なる学生間の国際交流の活性化が期待できる。

1 海外ブランチの活用（龍谷大学パークレーセンター <Ryukoku University Berkeley Center(RUBeC)>）

●BIE Programの展開

国際部の従来の留学説明会に加え、留学を経験した学生達のボランティア組織であるSABS (Study Abroad Advisor) による支援活動等も積極的に実施した結果、Semester Program (Spring, Fall)、5-Week Program (Summer, Spring) の4つのプログラムを通して、合計126名の学生が参加した。

●RUBeC演習（理工学研究科のプログラム）の実施

理工学研究科がカリフォルニア大学デービス校 (UC Davis) との連携により、「東洋の倫理観に根ざした国際的技術者養成」を目標とする「RUBeC演習」（大学院科目）を、2012年度もRUBeCにおいて開講し、理工学研究科修士課程の大学院生23名が履修した。

●国際シンポジウムの開催

南カリフォルニア大学を中心に研究者を招聘して、“Shin Buddhist Studies: Japan and the U.S.” 「日米の真宗学研究の現在」というテーマで国際シンポジウム（会場：南カリフォルニア大学）を開催し、米国の仏教研究者、日

本研究者との研究交流を推進した。

●龍谷講座の開講

米国仏教大学院 (Institute of Buddhist Studies) との協定に基づき、毎年本学から教員を派遣しており、2012年度も教員を派遣して「龍谷講座」を開講した。

●海外キャリア実践実習（理工学部）

大学生の就業力育成支援事業に採択された「社会的自立につながる実践的キャリア教育」の取り組みの一つとして、グローバル人材育成の推進を目的として、「海外キャリア実践実習」を開講し、理工学部生16名が履修した。

2 海外ブランチの活用<龍谷大学ハワイオフィス (Ryukoku University Hawaii Office)>

●伝道実践科目の開講

の実践的研究科目である「真宗伝道学特殊講義」、「開教師課程真宗伝道」等を開講し、ハワイにおける開教の実際に関する知識や、英語による伝道実践を実施した。

●仏教研究所(Buddhist Study Center)春季セミナー

BSCとの覚書に基づき、毎年本学から教員をBSCに派遣しており、2012年度も教員を派遣して春季セミナーを開催するとともに、現地研究機関との研究交流をはじめ地域貢献活動もおこなった。

3 海外の大学等との交流

●新規協定校

2012年度は新たにハノイ大学（ベトナム）、プレーメン応用科学大学（ドイツ）、長庚大学（台湾）、ユニバシティ・カレッジ・コーク（アイルランド）、プエブラ栄誉州立自治大学（メキシコ）、アゴスティーニョネット大学（アンゴラ）、イースト・アングリア大学（イギリス）と学生交換協定を締結し、協定校数は23ヶ国50大学となった。

また、国際交流に関する覚書の締結も積極的に進め、ダナン大学（ベトナム）、寧波大学（中国）、ウィジャタマ大学（インドネシア）、タイ国立開発行政研究院（タイ）、祥明大学校（韓国）、アゴスティーニョネット（アンゴラ）と覚書を締結した。

●短期受入プログラム

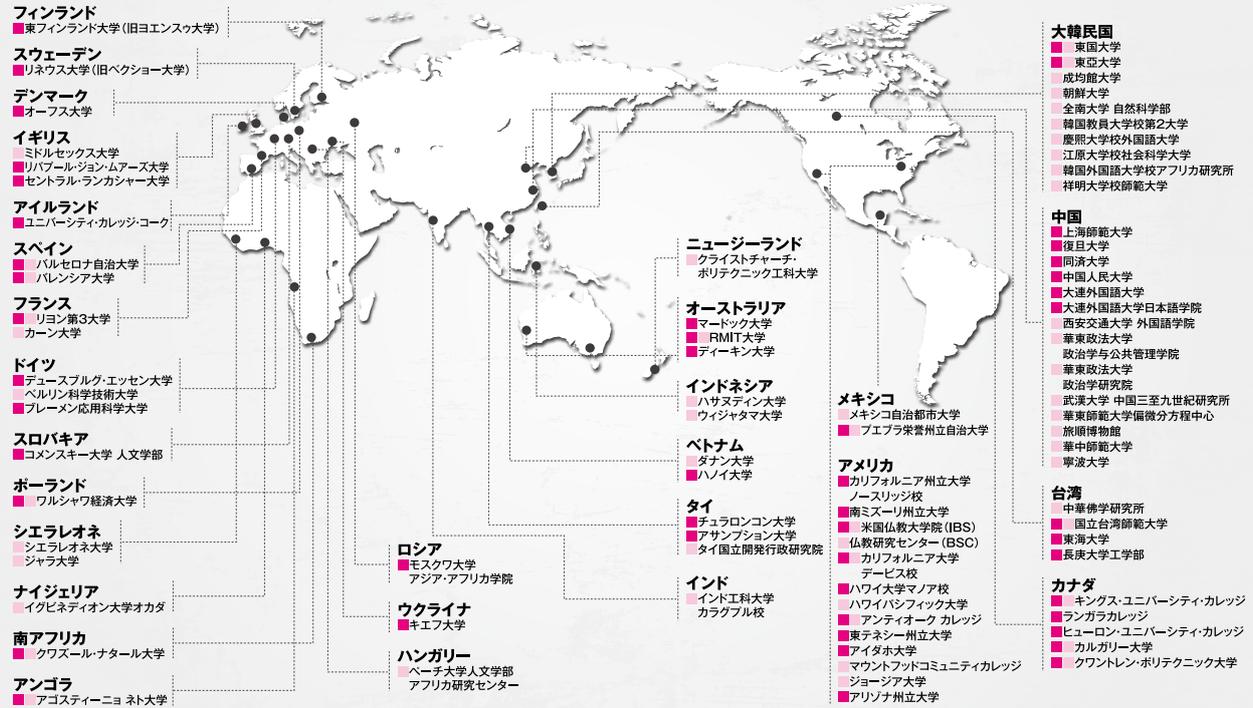
学生交換協定校等の短期受入プログラムとして、カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）、南ミズーリ州立大学（アメリカ）、アンティオーク大学（アメリカ）、マウントフットコミュニティカレッジ（アメリカ）、アリゾナ州立大学（アメリカ）、ディーキン大学（オーストラリア）、マドック大学（オーストラリア）、シンガポール国立大学（シンガポール）、韓国教員大学校（韓国）、慶熙大学校（韓国）、江原大学校（韓国）、韓瑞大学校（韓国）、聖潔大学校（韓国）、南ソウル大学から、140名の学生を受け入れ、国際交流に興味を持つ本学学生が日本での生活を支援するとともに、異文化理解を深めた。

世界に広がる「学生交換協定校」「国際交流一般協定校」

協定校一覧

世界29ヶ国に広がる「学生交換協定校」、「国際交流一般協定校」84大学・機関

■学生の交換協定を結んでいる「学生交換協定校」23ヶ国49大学
 ■教育・研究交流に関する協定を結んでいる「国際交流一般協定校」22ヶ国52大学・機関



本学から海外に留学した学生数（2012年度）

留学先	人数	留学先	人数
アジア	タイ 3	ヨーロッパ	アイルランド 3
	韓国 33		ウクライナ 2
	中国 43		イギリス 44
	台湾 7		スウェーデン 4
	フィリピン 2		スペイン 5
北米	カナダ 66		デンマーク 12
	アメリカ 158		ドイツ 3
オセアニア	オーストラリア 28		フィンランド 5
	ニュージーランド 12		フランス 23
	フィジー 1		ポーランド 1
			マルタ 8
			ロシア 2
			スロバキア 1
			合計 525

海外から受け入れた留学生数（2012年度）

国名等	人数	国名等	人数
アジア	インドネシア 5	ヨーロッパ	スウェーデン 1
	韓国 28		スペイン 4
	カンボジア 1		スロバキア 2
	シンガポール 1		チェコ 1
	スリランカ 1		デンマーク 1
	タイ 11		ドイツ 1
	台湾 10	ヨーロッパ	ノルウェー 1
	中国 431		フィンランド 3
	ベトナム 4		フランス 3
	マレーシア 1		ペラルーシ 1
	ミャンマー 4		ポルトガル 1
	モンゴル 3		ルーマニア 1
	ネパール 1		ロシア 1
オセアニア	オーストラリア 5	中東	イラン 1
	ミクロネシア 1	中南米	ブラジル 1
	イギリス 6	北米	アメリカ 9
ヨーロッパ	イタリア 1		カナダ 4
	ウクライナ 3		合計 553

4 留学生別科の展開

●日本語能力別のクラス編成とニーズに則したプログラムの提供

各学期の最初にプレースメントテストを実施し、日本語能力別にクラス編成した結果、5レベル7クラスを開講した。可能な限り交流型プログラム、進学型プログラムに分け、交換留学生、留学生別科生それぞれのニーズにあったプログラムを提供した。

●留学生新プログラム・新別科プログラムの検討

教育・研究国際化推進会議で検討を重ねた結果、「受け入れ留学生プログラムの再編について」を取りまとめた。この内容に基づき、留学生新プログラム実施案策定委員会を設置して、2015年4月開始を目標に、交換留学生を対象とした留学生新プログラムと、進学を目的とした新別科プログラムの時間割、シラバス、カリキュラムについて検討をおこなった。

5 外国人留学生の教育・生活支援

●就職支援の強化

京都地域留学生交流推進協議会開催の「外国人留学生のための就職ガイダンス&ジョブフェア」、京都市国際交流協会実施の「キャリアガイダンス」と「ジョブフェア」、京都府総合就業支援施設ジョブパーク「留学生コーナー」の積極的活用を促すとともに、キャリアセンターとも連携し、外国人留学生の就職支援に努めた。

●留学生寮による住環境整備

5つの留学生寮（龍谷会館、大宮荘、ともいき国際ハウス、ルミエール間宮、向島学生センター）に、常時約200名の留学生を受け入れた。それぞれの寮には2～4名の留学生寮・学生生活アドバイザーを配置して連絡を密にし、寮の運営における問題点や課題の解決に迅速に対応した。また、留学生と共同生活が可能な国際交流会館（ともいき国際ハウス、りゅうこく国際ハウス）を整備し、2013年3月から入居を開始した。このことにより、一般学生枠も含め最大275室を提供することが可能となった。

●奨学金による支援

2009年度をもって政府開発援助外国人留学生修学援助費補助金が廃止されたが、本学では外国人留学生の経済的負担を軽減する観点から、学費援助奨学金制度（2011年以前入学生：授業料50%、2012年度以降入学生：授業料40%を減免）を継続して実施した。また、優秀な留学生を対象とした外国人留学生特別奨学金の給付もおこなった。

●留学生住宅保証による支援

2010年度からスタートし既に3年が経過した「京都地域留学生住宅支援制度」は、協力事業者である仲介業者、管理者・家主からも一定認知されてきており、「京都地域留学生住宅保証制度」の後継事業として定着し、3年間で98名が使用した。

